

資料 1 札幌市アイヌ施策推進委員会

1 札幌市アイヌ施策推進委員会の概要

「札幌市附属機関設置条例」に基づく附属機関として、本市のアイヌ施策の実施状況などについて審議を行うため、札幌市アイヌ施策推進委員会を設置しています。

委員は、アイヌ民族関係者、人権擁護関係者、教育関係者、公募による市民などで構成され、任期は3年としています。

2 委員名簿

◎:委員長

氏名	所属など
阿部 一司	札幌アイヌ協会 会長
飯田 昇	公募
貝澤 文俊	札幌アイヌ協会 事務局長
北 由美子	公募
栗原 史 (令和2年10月29日付委嘱)	サッポロビール株式会社 北海道本社北海道戦略営業部参事 サッポロビール博物館館長
小樋山 規之 (令和2年8月31日付退任)	サッポロビール株式会社 北海道本社副代表
多原 良子	札幌アイヌ協会 副会長
永宮 慎也	札幌市立南郷小学校 校長
本田 優子	札幌大学 地域共創学群教授
◎ 松久 三四彦	北海学園大学 法科大学院法務研究科長・弁護士
八代 眞由美	札幌人権擁護委員協議会会長・弁護士

(敬称略、五十音順)

3 本計画の審議経過

実施回		開催時期	審議事項
令和元年度	第2回	令和元年10月4日	・前計画の振り返り
	第3回	令和2年1月20日	・計画の構成（名称、期間、体系など）
	第4回	令和2年3月26日	・前回の審議を踏まえた修正事項 ・計画の構成（体系など）
令和2年度	第1回	令和2年5月25日	・前回の審議を踏まえた修正事項 ・計画の趣旨や課題など
	第2回	令和2年7月13日	・前回の審議を踏まえた修正事項 ・具体的な取組など
	第3回	令和2年9月25日	・前回の審議を踏まえた修正事項 ・計画素案全体の確認
	第4回	令和3年3月29日	・計画の最終確認

資料2 意見交換会の実施結果

1 実施概要

団体名	活動概要	開催日・参加人数
札幌大学 ウレシパ ²⁸ クラブ	アイヌ文化に関する学習会や、学内外にアイヌ文化を発信する活動を行っている。	開催日：令和2年7月6日（月） 参加人数：6人
札幌アイヌ協会	先住民族の権利回復運動を始め、アイヌ文化関連イベント開催などの活動を行っている。	開催日：令和2年8月17日（月） 参加人数：13人
その他活動団体など	アイヌ文化に関する活動や、伝統儀式の継承などを行っている。	開催日：令和2年6月30日（火） ～令和2年7月7日（火） 参加人数：各1人（3団体）

2 意見の概要

■アイヌ文化の保存・継承・振興に関する意見

区分	意見
アイヌ語の継承について	アイヌ民族の年長者と言っても、必ずしもアイヌ語が話せる訳ではない。年を重ねてから、習い覚える事例もある。
	祖父母の世代でも、既にアイヌ語を伝承する習慣はなく、自分も、日本語もアイヌ語もうまくできない中途半端な状態だった。
	アイヌ語を話せる人が少なくなっている。子どもの頃から聞き覚えてきた経験があれば別として、活字に書き起こした状態で学んでも、アイヌ語の細かいニュアンスまで理解することは難しい。
エカシ ²⁹ ・フチ ³⁰ との関わりについて	子どもの頃から、エカシ・フチや両親から教わってきた経験が基になり、長い時間が経った今でも、アイヌ民族の伝統的な習慣が身に着いている。
	現在、エカシ・フチから学ぶという文化がなくなってしまった。若い世代が、エカシ・フチから伝統文化を学ぶための環境が必要。
	札幌に移り住み、何十年もアイヌ文化から離れて生活していても、昔の経験を覚えている年長者は多い。そういうものを役立て、伝えていけるような方法があればと思う。

28 【ウレシパ】アイヌ語で「育て合う」の意。

29 【エカシ】アイヌ語で「おじいさん、祖父」の意。

30 【フチ】アイヌ語で「おばあさん、祖母」の意。

区 分	意 見
文化継承の手法について	植物が生えている場所の探し方や、採取したものの使い方など、山を歩いて実際に体験することが大事。
	学校のような形式でできれば、文化の継承もできるかもしれないが、何かと難しさはある。
	以前、木彫りや刺しゅうなどの機動職業訓練を受け、そこからアーティストとしての活動を始めた人もいる。こうしたやり方を再開させ、可能であれば作品の販売も含めた流れができればいいと思う。
	一般向けの文化体験事業は様々あるが、アイヌ民族間での伝統文化の継承のために行われている取組もあればいいと思う。
	アイヌ民族に関する情報発信を行うような、メディアに関わる分野など、現代的な観点からの人材の育成も必要ではないかと思う。
文化継承の現状について	アイヌ民族が、自然と共に生きる上で培ってきた知恵はたくさんあるが、今アイヌの若者たちは、こういうことを全く知らない状態になっている。
	現在言われている「アイヌ文化」というものは、先祖が実践していた本来のアイヌ文化の体現にはなっていないと思う。アイヌ民族自身も、基本から学び直していかなければ、文化の姿も徐々に変わってってしまう。
	アイヌ文化を継承していきたいという思いがあっても、生活を優先せざるを得ない状況にある。
	今では、木彫りに関して若い世代のアイヌを育てる環境がなくなってしまった。
	家族に伝統文化を教えることもあるが、若い世代は、アイヌのこととなると逃げてしまう。
	若いアイヌ民族が、どれだけアイヌのことに興味を持てるか、どれだけ熱意を持ってアイヌ文化に関わろうと思えるかが重要。
文化継承に関する思いについて	「アイヌ民族だから舞踊をやってほしい」と言われるなど、アイヌ文化の実践を強要されたりすることを不快に思う。
	「アイヌ民族だから絶対に木彫りを継承しなければいけない」など、外部から文化の継承を押し付けるのはお門違いだと思う。
	アイヌ文化が衰退することは不本意だが、アイヌ民族に文化の継承を強要することも、アイヌ民族でない人に理解を強要することも、よく思わない。

■アイヌ民族に関する理解の促進に関する意見

区 分	意 見
情報発信の場について	札幌駅前通地下歩行空間は、人通りが多く、何か催しがあると、関心がない人でも気軽に立ち寄ることができるため、同空間にアイヌ文化の情報が発信できる場があればいいと思う。
	札幌駅前通地下歩行空間では、アイヌ文様を配したタペストリーが展示されており、また、アイヌ文化を発信する空間「ミナパ」では、アイヌ民工芸品作家の作品が展示されている。多くの人の目に触れる場所で、アイヌ文化に関する情報を発信する取組はいいと思う。
アイヌ語などの表記について	海外の先住民族に関する取組のように、道路標識や公共施設の看板など、目に付くところにアイヌ語があればいいと思う。
	看板への併記やガイドブックなど、アイヌ語の地名の由来が理解できるような仕組みがあればいいと思う。
アイヌ文化と生活空間との調和について	生活空間の中に、アイヌ文化が自然と溶け込んでいるような環境になればいいと思う。
	アイヌ文化について、積極的に知ろうとする機会を確保するよりも、生活の中で自然にアイヌ文化に触れられる環境があれば、関心のない人でも目を向ける機会が得られると思う。
	アイヌ文化を全面的に押し出すやり方では、難しいイメージを持つ人もいるかも知れず、自然とアイヌ文化に触れられる程度のアピールがちょうどいいのだと思う。
広報について	アイヌ語を教えている講座などに関する情報を受け取れていないアイヌ民族の若者は多い。まずは、そういうことを知ってもらい、関わりを持ってもらうことが大事。
	アイヌ文化のことを知りさえすれば、魅力を感じる人も多いと思うが、情報を得られる機会があまりないように思う。
	アイヌ関連イベントの情報は、意識的に探そうとしなければ見つかりにくい状況にあるが、イベント自体は面白みもあり、多くの人に情報が行き渡ればいいと思う。
	学生は、市役所などに足を運ぶ機会がほとんどない。興味を持つかはさておき、学校など、身近な場所にイベントなどの情報があればいいと思う。
関連作品との連携について	アイヌ文化を題材にした漫画など、影響力の大きいものを活用した情報発信は、若い世代には有効な手法だと思う。
	アイヌ民族を題材とした漫画が好きな人は、多少値が張ってもキャラクターグッズなどを購入しており、そうしたものと関連付けてアピールできればいいと思う。

区 分	意 見
子どもに向けた 取組について	アイヌ民族の子どもたちを対象として、アイヌ語だけで会話をするような空間を作る取組をしてみてもどうか。
	白老町のように、札幌市でも、学校生活の中でアイヌ文化を体験・交流する機会が充実していけばいいと思う。
	アイヌ文化を体験するキャンプなど、楽しみながらアイヌ文化を学べるイベントがあればいいと思う。楽しい経験は、家族にも話したくなるし、成長するにつれ、内容に関する記憶は薄れても、楽しかったという記憶は残る。

■体験・交流の促進に関する意見

区 分	意 見
札幌市アイヌ文化 交流センターに ついて	札幌で暮らし、アイヌ文化に関わってきた立場としては、札幌市アイヌ文化交流センターがもっと充実した施設になればいいと思う。
	コンセプトごとに展示を区別したり、どのように展示品を見たいかを示すような案内を充実させてほしい。
	大々的なイベントではなくても、定期的なアイヌ料理の出店などがあれば、人も集まるのではないかなと思う。
	周辺に子どもが楽しめるような空間があると、人が集まりやすくなるのではないかなと思う。
	屋外に、舞踊を披露したりできる舞台が設置されるといいと思う。屋外で見せることが大事。
	遠くて足を運びにくいいため、身近な場所にアイヌ関連の拠点があればいいと思う。

■産業等の振興に関する意見

区 分	意 見
アイヌ民工芸品 のブランド化に ついて	海外からの観光客などに、アイヌ民工芸品を紹介する上で、商品として出品できる品質を確保することが大切。
	今、“アイヌ”というだけで何でも売れてしまう状況が見受けられるが、アイヌ文化を正しく表現していないものもあり、そういうことについて、個人的にはあまりよく思っていない。
	アフリカの民族の文様を配したTシャツを販売し、売上の一部が現地の子どもたちの活動に寄付される取組がある。アイヌ文様も、そうした活用をすることで、若い世代でも関心を持てると思う。
	知的財産権の管理がしっかりとなされなければ、品質が確かな作品を制作しても、数か月後には模造品が売られてしまう。

区 分	意 見
アイヌ民工芸品の販売場所について	大通駅構内のような、観光客が多数立ち寄る場所に、アイヌ文化を発信できるような販売場所があればいいと思う。アイヌ民工芸品に関する人材を育成する上でも、そうした拠点が必要。
	札幌からアイヌ文化を発信するための拠点として、アイヌ民工芸品の販売場所を設置するのであれば、ここであれば確かな品質の作品を購入できる、という場所にしなければならない。
	全道のアイヌ民族の工芸作家がそこを目指し、工芸作家の生きる道となるような、レベルの高い販売場所が札幌市にできればと思う。
	アイヌ民工芸品の常設販売もいいが、小規模でも、若い人材の感性を活かしながら、アイヌ文化に理解のあるカフェなどの空間を活用した販売方法もあると思う。

■生活関連施策に関する意見

区 分	意 見
生活関連施策全般について	アイヌ施策として一番大事なことは、子どもの教育やお年寄りの医療や介護に関すること。
相談員について	身近なところに生活・教育の相談員がいれば、相談もしやすくなる。

■その他自由意見

区 分	意 見
アイヌ施策全般について	札幌で行う事業には、札幌のアイヌ民族が関わっていくことが大切。
	アイヌ民族として、自分たちでできることは自分たちで進め、不足があるような部分に関して行政と相談しながら対処していくことができれば、それが一番いい形になると思う。
	民族共生象徴空間が開業したが、札幌にも活用できる拠点や資源があり、宿泊場所が近い利点も活かしながら、色々なことができると思う。
	アイヌ文化と言えば特別視されがちだが、アイヌ民族としては当然のことであり、文化の違いによらず、互いを尊重できるまちなければいいと思う。
	アイヌ文化を体験できる事業に参加する機会ができれば、アイヌ民族に関するイメージも変わってくるのではないかと思う。
	時間を止めたところでアイヌ文化を見せるのではなく、現代的な手法を使いながら、伝統を活かしていくようなことにも目を向けることが必要。
	透明性を確保していかなければ、色々な勘違いが生まれたり、潜在的に存在するアイヌ民族の参加も得にくい。
	アイヌ施策について考える場所に、長期的に業務に携わる専門職員が必要だと思う。

区 分	意 見
自身の経験について	<p>子どもの頃に、歌や舞踊など、アイヌ文化に触れた経験があれば、一時そうしたものから離れる時期があったとしても、身に着いて残り、自負も持てる。アイヌ文化に触れずに大人になっても、アイヌ民族としての誇りは持てないと思う。</p>
	<p>自分の親もアイヌ文化と関わりがなく、アイヌ文化を学ぶ場などに関する情報を得る機会もなかったため、これまでアイヌ文化とのつながりは希薄だった。</p>
	<p>研修など、アイヌ民族の歴史に関する講話の依頼を受ける機会があるが、歴史については語りたくない人もいると思う。</p>
	<p>中学校では、「アイヌ民族」という理由でいじめがあり、学校に行けなくなった反面、両親からアイヌ民族の知識や経験をたくさん学ぶことができた。</p>
意見交換について	<p>アイヌ施策に取り組む上で、意見交換の機会を定期的に設けるなど、アイヌ民族と共に考えてほしい。</p>

資料3 市民意識調査の実施結果

1 令和2年度第1回市民意識調査の概要

調査テーマ	札幌市のアイヌ施策について（※）
調査対象など	調査対象：無作為に選ばれた18歳以上の市民5,000人 調査期間：令和2年（2020年）6月26日（金）～7月10日（金） 調査方法：調査票を郵送し、返信用封筒により回答
回収数など	発送数：5,000通 回収数：2,933通（回収率：58.7%）

※ 令和2年度第1回市民意識調査では、同時調査項目として、ほかに「動物園の必要性と役割について」、「自然と生物多様性について」、「札幌の農業について」の3項目についても調査を実施しました。調査全体の結果は、本市ホームページをご覧ください。

【掲載ページアドレス】<https://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/sakusei/r0201anke.html>

2 調査結果

■問1 あなたは、アイヌ民族について知っていますか。

選択肢	構成比
知っている（自身がアイヌ民族である場合を含む）	89.1%
知らない	7.4%
無回答	3.5%

■問1-1 あなたは、アイヌ民族についてどのようなことを知っていますか（複数回答）。

※問1で「知っている」と答えた方のみ回答。

選択肢	構成比
アイヌ民族が先住民族であるということ	94.7%
アイヌ民族が独自の伝統的文化を形成してきたこと	88.7%
明治時代以降、多くのアイヌ民族が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと	58.3%
中世以降、和人（日本の多数民族。大和民族とも呼ばれる）との間に交流や争いなどがあったこと	51.9%
現代では、他の多くの日本人と変わらない生活様式で生活しており、全国各地で暮らしていること	69.0%
個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保存、継承、振興などに取り組んでいるアイヌ民族がいること	71.3%
その他	2.4%
無回答	0.2%

■問1-2 あなたは、アイヌ文化についてどのようなことを知っていますか（複数回答）。

※問1で「知っている」と答えた方のみ回答

選択肢	構成比
衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること	94.6%
アイヌ語という独自の言語があること	93.5%
盆や衣服などアイヌ民族独自の伝統的な民芸品・工芸品があること	81.9%
伝統的な歌や踊りがあること	87.1%
豊かな表現で語り伝えてきた口承文芸・民話があること	59.2%
アイヌ民族独自の民族楽器があること	74.1%
アイヌ民族独自の信仰・儀式があること	67.9%
アイヌ民族独自の伝統的な家屋があること	54.8%
その他	2.3%
無回答	0.6%

■問2-1 あなたは、札幌市アイヌ文化交流センターを知っていましたか。

選択肢	構成比
知っており、行ったことがある	10.6%
知っていたが、行ったことはない	26.0%
知らなかった	61.7%
無回答	1.6%

■問2-2 あなたは、札幌市アイヌ文化交流センターにおいて、どのようなイベントなら参加してみたいと思いますか（複数回答）。

選択肢	構成比
アイヌ民族の伝統的な舞踊や楽器演奏の鑑賞や体験	27.3%
アイヌ民族の伝統的な儀式の見学	21.5%
アイヌ民族の伝統的な民芸品・工芸品の製作（アイヌ文様の刺しゅう・切り絵体験）	27.7%
アイヌ民族の伝統的な民芸品・工芸品の製作（木彫り体験）	18.5%
アイヌ民族の伝統的な料理の調理・試食体験	19.0%
アイヌ民族の伝統的な衣装の試着体験	9.5%
アイヌ語やアイヌ語に由来する地名の説明など学習体験	24.7%
アイヌ民族の歴史や文学などの学習体験	18.7%
アイヌ民族の自然観や動植物についての知識を学ぶ野外体験	18.1%
その他	4.0%
わからない	28.4%
無回答	5.7%

■問3 あなたは、アイヌ民族に関する施策のうち、どのような取り組みを重点的に行うべきだと思いますか（複数回答）。

選択肢	構成比
アイヌ民族への理解を深めるための啓発・広報活動	36.2%
アイヌ民族の歴史・文化の知識を深めるための学校教育	46.5%
アイヌ民族への職業訓練の充実や雇用の確保などの生活支援	14.7%
アイヌ民族への教育の充実・支援	13.9%
アイヌ文化継承のための人材育成	30.7%
アイヌ文化復興のための活動への支援	19.4%
アイヌ民芸品・工芸品のブランド化などの産業振興	28.6%
大学などの研究機関におけるアイヌ民族の歴史や文化に関する研究の推進	16.9%
その他	3.9%
わからない	21.2%
無回答	4.7%

■問4 あなたは、アイヌ民族について市民に知っていただくために、どのような取り組みを重点的に行うべきであると考えますか（複数回答）。

選択肢	構成比
札幌市公式ホームページやSNS ^{※20} などインターネットによる広報活動	36.4%
広報さっぽろやテレビ・ラジオなどによる広報活動	48.5%
アイヌ民族の伝統的楽器・衣服・食事などの体験や交流イベントの開催	42.5%
その他	5.9%
わからない	18.2%
無回答	4.1%

※20 【SNS】Facebook、Twitter、Instagram などのソーシャル・ネットワーキング・サービスのこと。

資料4 パブリックコメントの実施結果

1 実施概要

意見募集期間	令和2年（2020年）12月24日（木）～令和3年（2021年）1月27日（水）
提出方法	郵送、持参、ファクス、電子メール
配布・閲覧場所	札幌市役所本庁舎、札幌市アイヌ文化交流センター、各区役所、各まちづくりセンター

2 実施結果

■提出件数・意見件数

提出件数	63件
意見件数	178件

■提出方法別提出件数

	郵送・持参	ファクス	電子メール	計
件数	6件	2件	55件	63件

■居住地別提出件数

	国内			国外	不明	計
	市内	市外	道外			
件数	33件	3件	8件	2件	17件	63件

■計画の構成別内訳

	意見区分	件数
	第1章 計画の策定	33件
	第2章 アイヌ民族に関わる歴史的経緯	49件
	第3章 現状と課題	9件
	第4章 基本理念と施策目標	1件
	第5章 具体的な取組	49件
第5章内訳	施策目標1 アイヌ文化の保存・継承・振興	10件
	施策目標2 アイヌ民族に関する理解の促進	18件
	施策目標3 体験・交流の促進	7件
	施策目標4 産業等の振興	6件
	施策目標5 生活関連施策の推進	8件
	第6章 計画の推進体制	2件
	その他	35件
	合計	178件

3 計画素案からの修正点

■修正点 1

該当箇所	第5章 具体的な取組 施策目標 3 体験・交流の促進 推進施策 1 札幌市アイヌ文化交流センターの魅力創出
修正前	事業名：札幌市アイヌ文化交流センター中庭の再整備 事業内容：札幌市アイヌ文化交流センターの中庭を改修し、アイヌ民族の伝統文化を紹介する展示コーナーを設置します。
修正後	事業名：札幌市アイヌ文化交流センター中庭の再整備 事業内容：札幌市アイヌ文化交流センターの中庭を改修し、 <u>アイヌ民族の食文化を主題とした</u> 展示コーナーを設置します。
修正理由	本計画の取組に関し、「アイヌ民族の食文化に触れられていない」とする趣旨のご意見が寄せられたことを踏まえ、上記の取組が、食文化を主題としたものであることを明らかとするため、事業内容を一部修正しました。

■修正点 2

該当箇所	第5章 具体的な取組 施策目標 3 体験・交流の促進 推進施策 2 アイヌ文化の体験・交流の機会創出
修正前	【推進施策の概要】 市民や国内外の人々が、アイヌ民族に関する理解を深めるきっかけをつくるため、これまで、その伝統文化に関する様々な体験や交流の機会を創出してきました。この体験や交流が、より身近で参加しやすいものとなり、また様々な場面を通して提供できるよう、引き続きその機会の創出に取り組みます。
修正後	【推進施策の概要】 市民や国内外の人々が、アイヌ民族に関する理解を深めるきっかけをつくるため、これまで、その伝統文化に関する様々な体験や交流の機会を創出してきました。この体験や交流が、より身近で参加しやすいものとなり、また様々な場面を通して提供できるよう、 <u>国際交流も視野に入れながら</u> 、引き続きその機会の創出に取り組みます。
修正理由	海外の先住民族との交流などに関する提案のご意見が寄せられたことを踏まえ、当施策を推進するに当たって視点が、国内のみならず、国外を含めたものであることを明らかとするため、上記のとおり推進施策の概説文に追記しました。

本市ホームページで、意見の概要と市の考え方を掲載した「市民意見募集（パブリックコメント）実施結果」を公開します。

【掲載ページアドレス】 <https://www.city.sapporo.jp/shimin/ainushisaku/keikaku/dainiji.html>